

# 緑のまきば

2002 No.35

小金井緑町教会  
 小金井市緑町四一六三三  
 電話〇四二三八一七九六一  
 編集・牧師 山畑 謙

## 教 説

### 『目標をめざして』

山 畑 謙

すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか、信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。

(ヘブライニ・一〇二)

二月二日放送のNHKスペシャルで、脳卒中で体が麻痺した人が、車いすから立ち上がる新しいリハビリについて扱われていました。ある七一才の男性が脳卒中になり、重い後遺症が残りました。最初、リハビリがうまくいきません。担当の医師は、スタッフミーティングの中で理学療法士のリハビリのカルテに、何を目標としているのかが空欄になっている事を発見し指摘しました。「何を目標としてリハビリをしようとしているの」。そう問いかける医師に、療法士はとまどいながらボソッと「歩けること」と口頭で答えま

す。「それは目標とはならない」と厳しく言われます。生活の中で、具体的に何を目標とするのかが問われていたのです。療法士は、その患者さんの家を訪ねました。そこで分かった事は、その患者さんは家から三百メートル離れた畑に通うのを日課とし、喜びとしていたという事でした。しかし畑を目標とするには、危険が多く、遠すぎました。そこで、なお目標となるものを求め、家の玄関の所の花壇に行き当たったのです。それは、患者さんが以前丹誠込めて作っていた花壇でした。それを写真にとりながら、病院内

でのリハビリの計画を練り直したのです。

病院内の廊下の先に、台を置き、その上にプランターを置き、最初に花を植え付け、そして水やりをするためにそこまで歩いていこうという目標を立てました。ちょうど自宅の居間から玄関の花壇まで同じ距離を計り出し、車いすに頼らずに、自分の足で歩こうと。麻痺した右足を前にけり出す事は、並大抵の事ではありませんでした。それを療法士と一緒に足先をけり出しながら、一步一步練習しました。そしてついに、一步一步の力でけり出して、前に進むことができました。介護スタッフみんながまわりで手を打って喜びます。その患者さんは言いました。「嬉しい」。たった一步一步歩けることが、どんなに嬉しい事であったか。見方によれば、「まるで子ども扱いして、馬鹿にするんじゃない」と怒る人だっているのではないかと思えるような情景です。しかし、更に時間をかけ、この目標をもつたりハビリを重ねて、ついに廊下を歩ききって、花までたどり着いたその人は、言いました。「ありがとう」。そして拳を天に高く

あげたのです。

目標や目的というものは、ただ漠然としたものではなく、具体的に喜びとする事が実現される事こそが目標となり、そこにおいてこそ新しい一歩が踏み出されることを教え示されます。イエス・キリストに出会い、信仰をもって生きていくという時に、私たちの目標とはいったい何なのでしょう。最終的にはキリストの再臨の時のゴールがあるでしょう。そこに至るまでに、生活の中で実現する具体的な目標がどれほど私たちの位置づけられたり捕らえられたりしているのでしょうか。しかもそれが生きる喜びとなるものとして。

キリストの福音を頂くととは、キリストによって罪赦されるとは、新しく生きる目標が与えられる事ではないでしょうか。御言葉という魂の糧を頂いて養われ、私たちは何をしようとしているのでしょうか。どんなに小さな事でもいいのです。定められた競争を走り抜くために、自分の目標をもう一度考えてみましょう。共に走っていて下さる主イエスの故に、小さな一歩が大きな喜びとなるでしょう。